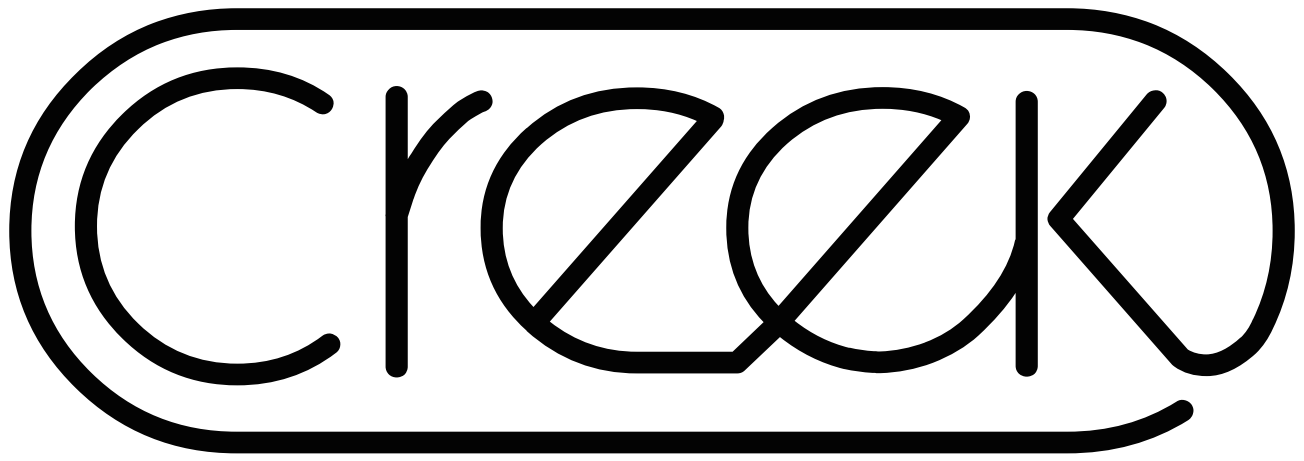




www.creekaudio.com

EVOLUTION 50A

Integrated Amplifier

取り扱い、説明書

この度は、Creek AudioのEVOLUTION 50Aを、お求め頂きありがとうございます。この商品は、最高のパフォーマンスを、提供できる能力を備えております。且つ、プリメインアンプとしての、機能と操作は、シンプルですが、下記に、その仕様と操作方法を、明記させていただきます。

英文のUser Manualは、最新版がCreekウェブサイト_WWW.creekaudio.comより、ダウンロードが可能です。
www.creekaudio.comのproduct pageで、EVOLUTION 50Aを選択、次にInstructionsのタブをクリックします。

UNPACKING AND LOCATING THE AMPLIFIER － 内容の確認とアンプの設置

初めに以下に書かれているもの全てが入っているかを確認してください。:

- . EVOLUTION 50A 本体
- . 電源ケーブル
- . リモコンと電池
- . 取扱説明書(本書)
- . 保証登録ハガキ (UK本国と、同じシステムにて、保証書は、発行されません)

もし入っていないものがありましたら、すぐに販売店もしくは弊社までご連絡ください。

梱包材は今後の輸送のことを考え、取っておくことをお勧めいたします。

EVOLUTION 50Aは、テーブル、棚、オーディオラック等に設置して下さい。大事な、アンプ内部のヒートシンクからの放熱を促す、良い喚起が重要です。EVOLUTION 50Aの、天板と底板のスロットは、塞がない下さい。他の機器の上に、EVOLUTION 50Aを置き、重ねた状態で、底の部分に置くのは、避けて下さい。ディスプレイに、over-temperature warning の表示が出た場合は、直ちに、電源スイッチを切ります。

MAINS CONNECTION - 電源の接続

重要: 電源コードを接続する前に、底面の電源切り換えスイッチにて、選択電圧がAC115Vを、確認してください。

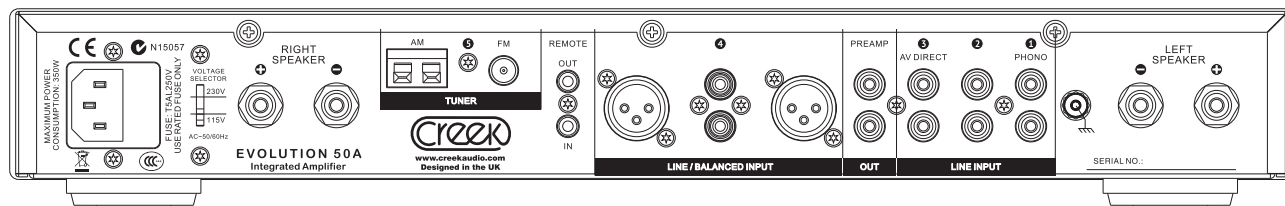
背面のIECソケットに、電源ケーブルを奥まで、しっかりと挿し込みます。出来るだけ、壁のコンセントから、直接に引き込み、タコ足の状態での、テーブルタップからの供給は、避けて下さい。

電源ケーブルのIECソケットには、引き出し型のフューズホルダーが、装着されています。交換する場合は、5 x 20 mm サイズの、規格(T5AL 250V)の、250V 5Aのタイムラグ(サージ防止)タイプを、使用します。不慮の事故を避けるため、規格外の部品の使用は避けて下さい。

INPUT AND OUTPUT CONNECTIONS

- 入力と出力の接続

※ Evolution 50 + Ambit Tuner(入力5)仕様



リアパネルには、4組の標準的な、ラインレベルの入力1-4を備えています。これらは、下記に表記の通り、オプションで、異なった希望に則した、特別メニューに対応が可能です。

* 通常のラインレベル入力は、300mV – 2V r.m.sの対応ですが、EVOLUTION 50Aでは、0 – 5.4V r.m.sの対応となります。

Line 1: 通常は、ラインレベル入力にて、CD,Tuner,Tape等に、対応しております。さらに、別売りのSEQUELフォノカードを、内部のプリアンプ基板に装着する事で、MM/MCカートリッジのPhono入力となります。

装着方法は、<http://www.creekaudio.com/blog/fitting-a-sequel-phono-module/>を参照下さい。

Line 2: ラインレベル入力にて、CD,Tuner,Tape等に、対応しております。

Line 3: このLine 3は、二つの機能を、備えております。一つは、ラインレベルの入力として。もう一つは、パワーアンプ部への直接入力として、プリ部ならびにボリュームをバイパスする「AVダイレクト」として、EVOLUTION 50Aを、AVシステムの一環として、フロントスピーカーのLとRchとして動作させる。

さらに、バイワヤリング接続に続く、更なるグレードアップ方法として、もう一台、EVOLUTION 50Aないし100Aを用意し、Line 3を、Pre-Outとして使用し、バイワヤリング対応のスピーカーを、バイアンプ駆動する方法があります。

バイアンプ駆動の効果として、スピーカーのHF部ならびにLF部に於ける、歪の低減ならびに中音域のクリアーで、明瞭なサウンドの改善に、著しい効果が上げられます。

Line 4: このLine 4も、Line 3と同様の機能を備えております。但し、RCAとXLRの入力を同時に使用することは出来ません。なお、バランス(XLR)伝送は、ノイズの影響を受けずらい伝送方式にて、長い距離を引っぱる場合には、効果があります。

Line 3では、プリアンプ部をバイパスして、信号を直接パワーアンプ部に入力するのが可能なので、“Line 4ダイレクト”と呼ばれる。この特徴は、別のEVOLUTION 50CD DAC & CDプレーヤー等のボリュームコントロールで、**EVOLUTION 50A**の出力を操作します。

PREAMP OUTには、パワーアンプ部へ供給されている信号が出力されます。この信号には、ボリューム、トーン他、アンプの全ての操作が影響します。必要なら、このPREAMP OUTから、もう1台のパワーアンプを動かすことが出来ます。例えば、サブウーファーとかスピーカーのバイアンプ駆動に使用します。

CONFIGURING THE INPUTS - 入力の設定

入力設定のメニューは、一度、電源スイッチを切り、MENU ボタンを押したまま、再度、電源スイッチを投入します。下記の三通りの、“セットアップメニュー” が、ディスプレイに表示されます。

Line 3 Options –

Line Level Input	通常の設定
Power Amp Input	プリアンプ部をバイパス、“AVダイレクト”モード

Line 4 Options –

Line Level Input	通常の設定
Power Amp Input	プリアンプ部をバイパス、“Line 4ダイレクト”モード

Factory Defaults

全ての設定を、工場出荷時の状態に戻す

ナビゲーションは、左側のロータリーコントローラーで、行います。設定後に、再度、MENU ボタンを押せば、新しい設定にて、**EVOLUTION 50A**は動作を開始します。

ADDING THE INTERNAL PHONO STAGE OPTION

－ 内蔵フォノステージの増設

柔軟性の一として、EVOLUTION 50Aでは、Line 1入力を、LP再生のフォノカ対応もしくはラインレベルで使用できます。LP再生には、別売りのプラグインタイプの‘SEQUELフォノカード’を、内部のプリアンプ基板に装着する必要があります。‘SEQUELフォノカード’には、MMカートリッジ用として、SEQUEL40-MK2ならびにSEQUEL48-MK2、MCカートリッジ用として、SEQUEL54-MK2が用意されております。フォノカードが装着されると、自動的にディスプレイには、Line 1がPhonoと表示されます。

Creek Audioでは、単体のハイグレードなフォノプリアンプとして、OBH-15mk2を用意しております。

接地ターミナル端子が、背面パネルに用意されており、ターンテーブルからのアース線を接続します。ボリュームをフルにした状態でも、スピーカーから、ハム音が聞こえないことが、ベストな状態です。

LOUDSPEAKER CONNECTIONS – スピーカーとの接続

スピーカーとEVOLUTION 50Aは、オーディオグレードのスピーカーケーブルにて、接続して下さい。スピーカーターミナルは、撚り線、4mmバナナプラグ、スペードのYラグコネクタに対応しております。

非常に大事なこととして、正しい位相でのスピーカーケーブルの接続が上げられます。通常、スピーカーケーブルは、極性が、ラインないし印字で表示されています。スピーカーターミナルの赤(ホットないし+)を、アンプの赤(プラス)ターミナルへ、同様に、スピーカーターミナルの黒(コールドないし-)は、アンプの黒(-)ターミナルへ、接続します。もし、同じ極性で、アンプとスピーカーが接続されなければ、結果として、バス(低音)性能の厳しい損失と、ステレオイメージの不足が生じます。

さらに、非常に大事なこととして、取り返しの付かない事態を招かない為にも、EVOLUTION 50Aが通電中に、スピーカーケーブルをショートさせないことが上げられます。特に、スピーカーターミナルにケーブルの端末を巻きつける際に、撚り線の一部が、他の端子に接触しないよう、十分な注意を払われることが大切です。スピーカー位置の変更は、最初に、EVOLUTION 50Aの電源を落として、再度、スピーカーケーブルの接続を、確認してから通電して下さい。

REMOTE IN/OUT - リモートIN/OUT

EVOLUTIONシリーズの各製品は、背面パネルの“REMOTE IN/OUT”ジャックで結合すれば、IRセンサーを使用して、連結動作が可能となります。

リモートOUTジャックは、リンクするときのオーディオ信号への干渉を防ぐため、電氣的に‘浮いて’います。事実、INとOUTジャックの両方が、信号において双方向であるが、INジャックには、外部のIRセンサーのパワーを、OUTジャックから供給します。

EVOLUTIONシリーズの製品を連結するときは、いつもOUTジャックからINジャックに接続し、ダメージを避ける為にも、決して、INジャックとINジャックを接続してはなりません。

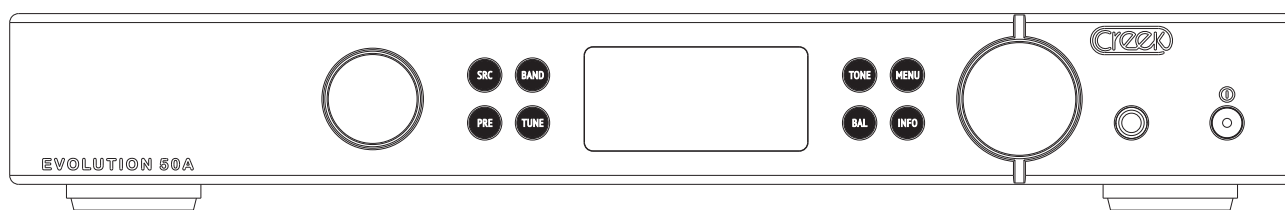
どの様な組合せでも、一本のケーブルで十分であり、信号が双方向であるので、接続のループを形成する必要は、ありません。

接続に使用するケーブルは、3.5mmのステレオタイプのミニジャックプラグケーブル(3端末)であり、3.5mmのモノタイプのミニジャックケーブル(2端末)を、使用することは出来ません。

INジャックに、何かを接続すると、内蔵のIRセンサは、信号のクラッシュを防ぐために、機能を停止します。

リモート接続では、連動する様々なEVOLUTION製品に対して、独自のシリアルコマンドによるリモート操作、ならびにファームウェアの最新版を、提供し実行します。

OPERATING THE EVOLUTION 50A – EVOLUTION 50Aの操作



フロントパネルでの操作、左から右へ、ロータリーインプットセクターノブ、SRCとPRE、チューナー用のTUNEとBANDの4ボタン、OLEDのディスプレイウインドウ、TONE、MENU、BALとINFOの4ボタン、ボリュームコントロール、ヘッドフォンソケット、電源のon/offスイッチと続く

注意: 全ての設定は、電源を切った際の状態で、記憶されます。

電源スイッチが投入された後に、Creekのロゴを表示、入力とボリュームレベルが表示され、準備完了となります。入力の切り換えは、左側のロータリーインプットセクターにて、さらにリモコン操作でも可能。ボリュームの設定は、右側のロータリー操作もしくは、EVOLUTIONのリモートコンで操作、さらに、ノブを押す事でミュートのon/off操作となります。

大事な点は、アンプのパワー出力は、入力機器の信号レベルとボリューム設定で、決まると言う事です。よって、低い出力信号のソースでは、同じパワー出力に達するには、より高いボリュームを必要とします。仮に、ボリュームが、聴取レベルを達成するために、0dBを表示していても、アンプがその最大の能力にて、増幅していることを意味する訳ではないので、心配には及びません。

ボリューム設定は、電源を切った時点を記憶していますが、再度、電源が投入された場合でも、値は、予期しない大きい音が発生するのを防ぐために、最大で-20dBに制限されます。

MENUボタンでは、EVOLUTION 50Aに、いくつかのセットアップオプションを提供します。ボタンを押すと、3つのオプションが表示されるので、左側のコントローラーにて選択します。次に、コントローラーを押すことで、オプションの設定が表示されるので、希望する設定を選択し、再度、コントローラーを押すことで、設定が完了します。オプションの選択肢は、次の通りです。

Display Settings - ディスプレイの設定

Always On	動作中は、OLEDディスプレイが、常に点灯する
Auto Off	少し経った後に、OLEDディスプレイが、消える

Display Brightness - ディスプレイの明るさ

Full	スクリーンの明るさが最大
Medium	
Low	スクリーンの明るさが最小

Headphone Switch - ヘッドフォンによるスピーカーのOn/Off

Disable Speakers	ヘッドフォンジャックを差し込むと、スピーカーが停止
Simultaneous Use	ヘッドフォンとスピーカーの双方が動作

好みのオプションを選択し、コントロールを押すことで、構成が完了しますので、MENUキー使って、終了します。

BAL (Balance)ボタンで、左右のチャンネルの、相対的なレベルの調整を行います。BALボタンが押されると、右側のロータリーコントローラーは、バランス調整のコントローラーとなり、設定値がディスプレイに表示されます。バランスをセンターにリセットするには、単にコントローラーを押せば戻ります。

TONEボタンで、低音と高音のレベル調整を行います。最適なサウンドクオリティを維持するために、通常、トーンコントロール回路は、バイパスされています。TONEボタンを押して、表示が“Tone On”を示すまで、押し続けます。TONEボタンは、Bass, TrebleおよびMuteで循環します。トーンの調整は、右側のロータリーコントローラーで行ない、コントロールを押すと、値はゼロにリセットされます。再び、トーン回路を無効にするには、TONEボタンを押して、スクリーンに「トーンOff」を示すまで、押し続けます。フラットな特性の為に、トーン回路をバイパスした後でも、トーン調整の設定は記憶され続けます。

PROTECTION - 保護

EVOLUTION 50Aには、ショート(過電流)、オーバーヒートおよびDCオフセットの保護回路を備えています。これらの状態のどれかが起きた際、内部のスピーカーリレーが出力を隔離して、原因が表示されます。その後、原因がクリアされた後に、スピーカは再度接続されます。

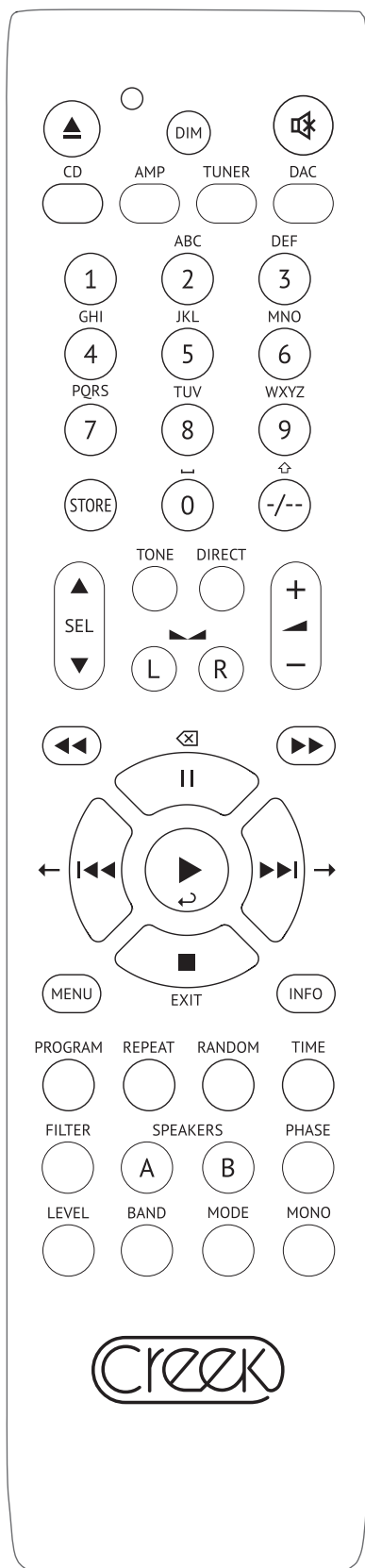
適切な換気があっても、オーバーヒート(over-temperature)が現れたなら、スピーカー配線に、不具合がないかチェックして下さい。同様に、過電流(over-current)保護が起動されたならば、アンプの電源を落として、スピーカー配線でのショート(short-circuit)をチェックして下さい。

DC発生‘DC presence’の警告は、アンプ内部での不具合、またはアンプへの厳しい負荷(overload)によって、時々引き起こされます。明に歪が聞えるレベルでは、決してアンプを動作させてはいけません。状態がクリアされるならば、ボリュームを減少させてみて下さい。これは、アンプかスピーカのどちらかで、その能力を超えた使用により、永久的なダメージをもたらす原因となります。

POWER CONSUMPTION - 消費電力

機器の性能を、絶え間なく向上させることが、ハイレファイマニアに感謝されることである。しかしながら、サウンドクオリティーでの小さな改良が、電気の消費を犠牲にして、いかに電気代を増加させ、さらに商品のライフサイクルを短くする事となります。EVOLUTION 50Aの待機電力は、僅か20Wであり、現実的です。

しばらく使用されない場合は、フロントパネルの電源スイッチで、EVOLUTION 50Aを切るのを推奨します。通常の性能は、EVOLUTION 50Aアンプの高度な回路のため、非常に短い時間で達成されます。



REMOTE CONTROL - リモコン

EVOLUTION 50Aの新しいリモコンは、アンプ、CD/DAC/プリおよびチューナーの機能を、操作することが出来る。EVOリモートは、CreekのEVOLUTION 50と100のシリーズに対応しているが、電源のon/offを切り換えることはできない。

リモートの操作は、直感的な操作になるように設計されています。よって、ここでは丹念に、その機能を記述しないつもりです。まずは、動かしてみてください！

FIRMWARE AND HARDWARE CONFIGURATION

－ ファームウェアとハードウェア構成

EVOLUTION 50Aでは、ハードウェアとファームウェアの状態を、表示し確認することが出来ます。一度、電源をオフにして、次に、INFOボタンを押しながら、電源をオンにします。スクリーンに“About this unit”と表示されたら、INFOボタンを押します。SEQUELフォノカードとAMBITチューナーカードの、有る無しと共にファームウェアバージョンが表示されます。この情報は、製品へのアップグレードかサービスの場合に、必要となります。

RADIO INTERFERENCE

－ ラジオインターフェース

EVOLUTION 50Aは、国内の電波状態で、適切に且つ正常に働くように設計されています。しかしながら、スマートフォンの移動など送信機に近い状態では、その性能が影響されます。この場合、50Aかスマートフォンを移転することで、状況を正常化することが出来ます。

FINAL WORDS

－ 最後に

EVOLUTION 50Aは、何年にも渡る確かな使用を、提供するように設計されています。より多くのサポートを必要とする場合は、専門家を有する販売店に、助けを求めるのが賢明な方法と言えます。EVOLUTION 50Aが、アフターサービスが必要な程の状況であれば、元のパッキンにて販売店に、送り返されるべきです。

クリークは、製品の仕様を、事前の予告なしで変える、もしくは変更する権利を有しています。

誤った使用、無知、理由のない変更等ではなく、EVOLUTION 50Aの正当な使用に於ける故障は、クリークオーディオ社の責任に於いて、購買日からの2年間は、無償にて不完全な部分を取り替えます。この保証は、イギリス国内での有効が、法定の権利で与えられています。国外でのサービスは、お買い求めの販売店、もしくはクリークのディストリビューター/輸入業者に於いて、記述されるべき内容となります。

ディストリビューター/輸入業者のリストは、クリークのホームページwww.creekaudio.comを、ご参照下さい。

Technical Specifications: スペック

パワー出力 @ 1% THD	>55 W 8 Ω / 2ch 駆動
パワー出力 @ 1% THD	>85 W 4 Ω / 2ch 駆動
連続出力電流	>8.5A (正弦波)
最大供給電流	+/-26 A / 0.5 Ω
歪とノイズ	< 0.005% / 2/3パワー出力 8 Ω
S/N	102dBA / ライン入力
周波数特性	<10Hz to >100 kHz +/-2dB (ライン) <10Hz to >50 kHz +/-2dB (バランス)
利得 / 1 kHz アンバラ(RCA)	33.3dB (x 46)
利得 / 1 kHz バランス(XLR)	27.0dB (x 22.5)
入力感度 / ライン	410mV
最大入力電圧 / RCA& XLR	5.4V & 10.8V r.m.s.
クロストーク	-80dB / 1 kHz
DC オフセット	< +/-10mV
プリアンプ入力	4 x RCA アンバランス (オプションを含む) (プラグインタイプのSEQUELフォノカード)
プラグイン フォノオプション	INPUT1を、SEQUELフォノカードにて、フォノ入力に変更 (利得: 40、48 ないし 54dB)
パワーアンプ入力	入力 3 & 4 を設定変更 (パワーアンプへの直接入力)
チューナー & RUBY DAC オプション	AMBIT FM/AM チューナー & RUBY DAC ブルートゥースモジュール
リモートジャック IN	IRセンサーの出力を接続/Evolutionシリーズとの連結
リモートジャック OUT	連結動作の為、他のEvolutionシリーズへの出力
スピーカー出力	1ペアのバイディングポストターミナル (4mm バナナプラグ、Yラグないし撚り線に対応)
出力インピーダンス	<0.1 Ω / 1 KHz , 8 Ω
ヘッドフォン出力	1 x 6.3mm ジャック、ローインピーダンス対応 (<50 Ω)
電源電圧	AC 100 - 115V 50/60Hz
フロントパネル仕様	シルバーないし黒 (取り寄せ/¥15,000 up)
消費電力:アイドリング、最大	<20 W, 350 W
重量	7.5kgs
寸法(W/H/D)	430 x 60 x 280mm (足とノブを含む)